

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成 29 年度業務実績に関する評価結果を踏まえた
業務運営の改善等への反映状況

評価項目	平成 29 年度業務実績評価における主要な指摘等	左の指摘等を踏まえた平成 30 年度の改善の状況
<p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>連携協力・地方における上演等〔伝統芸能の公開〕</p>	<p>・ 伝統芸能について、地方における鑑賞機会の充実を図ることは、国立劇場として取り組むべき重要な課題であり、今後は地方公演の充実等を図る方策についても検討していく必要がある。</p>	<p>[国立劇場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞教室公演の DM 送付先を拡大（関東甲信越地方の中学校・高等学校及び首都圏の専門学校に加え、東海地方・南東北地方の中学校・高等学校にも送付） ・ 修学旅行検討用の学校向け雑誌に、歌舞伎・文楽鑑賞教室などの公演案内を掲載。 ・ 初春歌舞伎公演において、演目ゆかりの地である兵庫県播磨地域・神戸市の主な旅行代理店に DM を発送。 ・ 歌舞伎鑑賞教室の地方公演の際は舞台技術職員を派遣し、国立劇場の技術やノウハウを継続的に提供。各劇場の舞台機構上の制約を踏まえつつ、できる限り国立劇場と同じ公演形態で実施できるよう努力を継続。 <p>[国立能楽堂]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立劇場おきなわ開場十五周年記念特別公演の制作に協力（2/8、2/9、新作狂言「鮎」（平成 29 年度制作）ほかを上演）。 ・ 地方公共団体等からの依頼により令和元年度に新作狂言「鮎」を各地で上演。 <p>[国立文楽劇場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度に山口県立劇場「ルネッサながと」で文楽の受託公演とワークショップを予定（公益財団法人長門市文化振興財団と連携）。 <p>[国立劇場おきなわ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県の補助事業を活用し、県内市町村との連携公演（金武町「琉球舞踊鑑賞教室」）、県外の劇場との共催公演（京都造形芸術大学）、講座、ワークショップ、展示等を実施（前年度に引き続き実施）。 ・ 令和元年度は組踊上演 300 周年記念実行委員会との連携により、組踊の県外及び県内巡回公演へ参加協力予定。 ・ 令和元年 12 月にパリ日本文化会館において組踊公演を実施予定。
<p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>	<p>・ 快適な観劇環境の提供、外国人来場者への対応等は 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け継続的に改善して</p>	<p>[国立劇場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 客席内の絨毯の張替えを実施。 ・ 大きな荷物の客席への持ち込みは入場時に声かけを実施（前年度に引き続き実施）。 ・ 歌舞伎及び文楽公演の公演解説書内に英文解説を記載。その他の舞踊等公演については英文リーフレットを無料配布。 ・ 多言語ポータブル字幕機サービスの実施（新規、30 年 10 月歌舞伎公演）。 ・ 4 言語（英、中（繁・簡）、韓）の別冊パンフレットを作成、無料配布（30 年 10 月歌舞伎公演）。 ・ チラシに英語の公演情報を併記（30 年 10 月歌舞伎公演以降、各公演に順次拡大）。 ・ 日本語字幕に英語字幕を併記して投影（3 月特別企画公演「浅草」）。 ・ 海外からの旅行者の観劇を増やすため、旅行代理店・ホテル等との連携強化を一層進め、英文スケジュールチラシを引き

<p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>快適な観劇環境の形成</p>	<p>いくことが求められる。</p>	<p>続き空港、観光案内所、都内主要ホテル等に配布。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎・文楽紹介リーフレットの各国語版（英、中（簡・繁）、韓、仏、西、独）を増刷・配布。 ・「Discover KABUKI」及び「Discover BUNRAKU」の特別チラシを従来の4か国語（英、中、韓、西）にフランス語を加えた5か国語版として空港・観光案内所・主要ホテル等に配布。 <p>[国立演芸場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猛暑が続いた夏の熱中症対策の一環として、1階ロビーへウォーターサーバーを設置。 ・「Yose Performance Information」（英語版の大衆芸能紹介パンフレット）、国立演芸場施設紹介リーフレット（英、中（簡・繁）、韓[30年度新規作成]）を刊行、大学の留学生センターや日本語学校等に配布（前年度に引き続き実施）。 ・令和元年度には一般社団法人日本演芸家連合と連携し、広範な大衆芸能関連ワークショップの展開を計画。 <p>[国立能楽堂]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Discover NOH & KYOGEN」の特別チラシは4か国語（日、英、中、韓）として作成・配布。公演当日には6か国語（日、英、中、韓、西、仏）の演目紹介パンフレットを無料配布。 ・文化庁芸術祭主催公演（11/30）は、英文の特別チラシを作成・配布。公演当日には3か国語（英、中、韓）の演目紹介リーフレットを無料配布。 ・能楽紹介パンフレット「能楽入門」（日、英、中、韓）を増刷・配布。 ・主催公演において（「蠟燭能」を除く）、2か国語（日、英）のパーソナル字幕サービスを提供。「Discover NOH & KYOGEN」においては、2か国語に中国語、韓国語を加えた4か国語としてパーソナル字幕サービスを提供（前年度に引き続き実施）。 ・令和元年度より場内アナウンスによる注意喚起に加え、観劇マナーのプラカードを用いて、案内係が観劇マナーの普及に努める。 <p>[国立文楽劇場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場内アナウンスや係員の声かけによる注意喚起に加え、日本語・英語によるマナーチラシやポスターを用いて観劇マナーを普及。 ・ロッカーに入らない大きな荷物の観客には、来場時に積極的に声かけし、受付で預かる。 ・独立行政法人国際交流基金や自治体等の要請による、外国人演劇関係者の見学受入等を積極的に実施。 <p>[国立劇場おきなわ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Discover KUMIODORI」に英語通訳を配置し、多言語電話通訳サービスや多言語対応オーディオガイドを導入。 ・例年実施している企画公演「アジア・太平洋地域の芸能」でモンゴルの伝統芸能を取り上げ、令和元年度も「アジア・太平洋地域の芸能」を引き続き実施予定。 ・令和元年度は同期間に開催している「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ（りっかりっかフェスタ）」との広報面における連携を検討中。 <p>[新国立劇場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式サイトや劇場案内パンフレットを外国人来場者にとって見やすく便利な内容に改善。
---	--------------------	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・施設案内サインの英語併記を進めている。 ・公式サイトのリニューアルやオペラ公演での英語字幕導入を検討するなど、今後も継続的な改善に努める。 ・開場後 20 年を経過した客席の老朽化への対応等について、計画的な対応を検討。
<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>広報・営業活動の充実</p>	<p>・広報、営業活動等については、各劇場間で連携を図るなど、最大限の効果が図られるよう法人全体で戦略的に取り組む必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国立劇場・国立能楽堂・国立文楽劇場の各館で実施している鑑賞教室の案内ホームページを引き続き合同で作成・公開。 ・国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂・国立文楽劇場の各館で実施している親子を対象とした公演を紹介する特設サイトを設置。目立つようトップページにバナーを設置し誘導。また、親子特別料金を設定して販売促進を企図。 ・国立劇場・国立演芸場・国立能楽堂で連携して「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営。会員向けイベントの企画等について意見交換。平成 30 年度は新たに国立劇場と国立演芸場で連携して、国立劇場キャンパスメンバーズの会員向けイベントを実施した。（「寄席・落語入門」） ・3月琉球芸能公演の販売促進のため、国立劇場・国立劇場おきなわで連携し、沖縄への観劇ツアーや東京でのあぜくら会員向け特別企画などのイベントを複数開催。 ・国立劇場 7 月歌舞伎鑑賞教室と文楽劇場夏休み文楽特別公演第三部で同演目「日本振袖始」を上演したため、ダブル観劇キャンペーンを実施。今後も同様の公演セット券を企画・販売予定。 ・各館営業担当者と顧客団体の情報を共有、顧客のニーズにより合致した観劇が出来るよう努力。 ・「振興会ニュース」や新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」等、各館の発行物にそれぞれの公演情報を掲載。 ・国立劇場の観客に対して新国立劇場公演のチケット先行発売・特別割引販売等を実施。 ・演芸家の襲名、真打昇進披露公演の際は落語協会、落語芸術協会及び都内の 4 演芸場と連携し、共通チラシ・ポスターを作成し幅広く広報・営業活動を実施。
<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>青少年等を対</p>	<p>・外国人のための鑑賞教室については、体験型プログラムの実施等、ニーズを踏まえた新たな事業展開等についても検討していく必要がある。</p>	<p>[国立劇場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年から「Discover KABUKI」「Discover BUNRAKU」を拡大し、従来の 5 言語に新たにフランス語を加え 6 言語（英、中（繁・簡）、韓、西、仏）で解説書・イヤホンガイドを作成。解説書は 6 言語の歌舞伎・文楽の概説とあらすじを一冊にまとめ、入場者全員に配布。 ・相互協力協定を結んだ日本学生支援機構の支援する留学生等に対して観劇会や体験型イベントを実施。 <p>[国立能楽堂]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Discover NOH & KYOGEN」では事業当初より公演前にワークショップ（囃子方体験）を実施中。 ・令和元年度は、外国人のための能楽鑑賞教室「Discover NOH & KYOGEN」を 2 公演に増加することを決定。また、連続公演となるミニ公演「国立能楽堂ショーケース」を実施し、外国人にもわかりやすい初心者向けの公演を拡充。 <p>[国立文楽劇場]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Discover BUNRAKU」で 6 か国語 7 言語（日、英、中（簡・繁）、韓、仏、西）による無料パンフレットを作成・配布。 ・外国人向け文楽入門パンフレット「Introduction to BUNRAKU」英語・中国語に加え韓国語版・フランス語版を作成・配布。令和元年度にはスペイン語版を作成予定。 ・2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、外国人に対し体験型プログラムの実施を検討中。

<p>象とした公演 [伝統芸能分野]</p>		<p>[国立劇場おきなわ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Discover KUMIODORI」に英語通訳を配置し、多言語電話通訳サービスや多言語対応オーディオガイドを導入。 ・外国人観光客へのPRを継続して実施。 ・沖縄県、沖縄県教育委員会、外国人関係団体等に案内文書を送付。 ・公演前に英語通訳者を配した「外国人のための組踊ワークショップ」を実施。
<p>I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>青少年等を対象とした公演 [伝統芸能分野]</p>	<p>・新たな観客層の開拓・育成等を図ることは、国立劇場として取り組むべき重要な課題であり、今後は鑑賞教室に加え継続的な鑑賞につなげていくための個人向けの企画などについても検討していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞教室公演のDM送付先を拡大（関東甲信越地方の中学校・高等学校及び首都圏の専門学校に加え、東海地方・南東北地方の中学校・高等学校にも送付） ・修学旅行検討用の学校向け雑誌に歌舞伎・文楽鑑賞教室などの公演案内を掲載。 ・7月歌舞伎鑑賞教室「親子で楽しむ歌舞伎教室」専用チラシを東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県の小中学校及び教育委員会に送付。上演期間中は劇場ロビー及び伝統芸能情報館で子供向けの各種イベントを開催。 ・令和元年度の鑑賞教室利用促進のため、過去3年間観劇履歴のない首都圏の中学校・高等学校・専門学校等の担当者を対象に鑑賞教室の企画及び施設説明並びに鑑賞教室公演の観劇による「鑑賞教室体験会」を実施。 ・大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」を運営。若年層の本公演の観劇機会の増加を企図し、入場料金を会員割引価格で提供。 ・稽古場や劇場ロビーにおける体験プログラムを実施（「親子で楽しむ舞踊・邦楽」「大人のための雅楽入門・大人のための声明入門」）。 ・連続公演となるミニ公演「国立能楽堂ショーケース」を実施し、外国人にもわかりやすい初心者向けの公演を拡充する。 ・沖縄県の補助事業を活用して、教育機関を対象に貸切バス費用助成事業を実施。 ・沖縄修学旅行誘致を目的とした「沖縄修学旅行フェア」に参加し、組踊及び沖縄芝居の鑑賞教室をPR。 ・夏休み期間に上演される7月「琉球舞踊鑑賞教室」8月「親子のための組踊鑑賞教室」では、大劇場ホワイエにおいて舞踊小道具の展示、体験、記念写真コーナーを設置。

以上